

## 神奈川県立相模原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和5年度 神奈川県立相模原支援学校 第1回学校運営協議会		
開催日時	令和5年5月29日(月) 13:40～16:00		
開催場所	相模原支援学校 実習棟 2階 縫製室		
出席者	学校運営協議会委員8名、本校職員：事務局11名(内総括教諭7名、関係教諭2名)		
次回開催予定日	令和5年8月上旬を予定		
問合せ先	神奈川県立相模原支援学校 副校長 比留川 はるか 電話 042-778-0818 FAX 042-778-4957		
下欄に掲載するもの	議事録	公開を概要とした理由	
審議・会議経過 【学校運営協議会 (学校評価部会)】	<p>※(事務局)本日の日程・配付資料の確認、会長選出後に会長・学校長挨拶</p> <p>1 自己紹介</p> <p>2 協議(意見等)</p> <p>○学校運営協議会の基本コンセプトの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員会と学校運営協議会は異なる。違いを知ることで、コンセプトが見えてくる。</li> <li>・学校評議員会は、第三者が学校と地域の方と一緒に運営を考える。学校運営協議会は、地域の方と学校とが一体となって運営をしていくものである。学校評議制度の評議員にPTAの方も参画していた。今は、地域もどのようにして子どもたちが関わっていくのかを教員と一緒に考えて地域で学んでいく意味合いがある。学校が地域に出ていく必要がある。</li> <li>・学校運営協議会は、まだ理解していない人がいるため、教員や地域の人に共有していく必要がある。学校運営協議会の委員と一緒に、相模原支援学校にいる子どもたちをどう育てるか、子どもたちにとって必要なことを考えていくものである。わからないことはみんなで確認しながら進めていきたい。</li> </ul> <p>○第1回学校評価部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画を考えるため、今年度のことだけでなく、過去のこと踏まえて考える必要があると考える。過去3年間の踏まえ、年間運営計画ができていくのかも含めて、年間運営計画についてお聞きしたい。</li> <li>・保護者懇談会で、4年間の学校教育目標と今年度重視したい取組について、保護者に伝えた。(資料7)これを踏まえ、各グループで年間運営計画を立てている。</li> <li>・本来であれば、「今年度重視したい取組」についても学校運営協議会から意見をもらうことが必要である。</li> </ul> <p>【年間運営計画について】各総括教諭より、各学部、公務分掌毎の年間運営計画を説明した。 【各委員等からの気づいた点・意見】</p> <p>●学部年間運営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ事前課題を踏まえ、計画されている。具体的にどのように進めていくと良いか。</li> <li>➡小：年間運営計画について、書くだけで生かされていないという課題があった。そのため、年間運営計画が児童の指導・支援に生かされるよう書式の変更を行う予定である。加えて、夏休みに教員のスキルアップのための研修を考えている。</li> <li>➡中：将来の進路先、高等部での生活のため、中学部でできる進路指導について進路支援班と考えていく。また、ゲストティーチャーの活用も予定している。</li> <li>➡高：各教科の指導内容を検討し、全校に発信していくことを考えている。</li> <li>➡分：生徒がセルフチェックをするシートを活用し、生活スキル、学習についての振り返りを学期毎に行う。1年生ではまず学校生活に慣れること、自分を知ること。2年生はチャレンジしていくこと。3年生では(進路先について)自分で選び、決めていくことが大切であるとする。学部学年でのグルーピング等も考え、子どもたち同士で成長していくことに取り組んでいく。</li> <li>・特別支援学校では、個人ごとに目標を立ててもらっている。その元に年間運営計画があり、個別教育計画につながっていると分かった。小学部にいる保護者に、中学部でやることを伝</li> </ul>		

えた上で、小学部での取り組みを伝えられたら良い。さらに、小学部の保護者に中学部の目標を、中学部の保護者に高等部の目標を、早い段階で発信していけると良いと考える。

- ・社会スキルの身に付け方や、キャリア教育について気になっている。以前、ハローワーク主催で進路のガイダンスを行ったところ、保護者からは「もっと早く知りたい」といった意見が多数あり、高2、高3の保護者からは「もう遅い」という意見もあった。進路に関して、どのように積み重ねていくかも課題である。例えば、放課後等デイサービスが学校や家に迎えに来ていることで、送迎してくれて当たり前と思ってしまう、自立から遠ざかってしまうケースもある。切れ目なく発達段階に応じた支援をしていく必要がある。教育課程にもそのようなプロセスを入れていきたい。

●校務分掌の年間運営計画について

- ・カリキュラム・マネジメントとは何か。学校外で話をする場合は、わかりやすい言葉で伝える必要がある。かつて用語集を作ったこともあった。
- ・通常学校では教科ごとの時間割があるが、特別支援学校では個々のカリキュラムとなるのではないか。

➡カリキュラムは教育課程であると考え。各教科等の学習内容や必要な物的、人的なものを組織的に確認し、作成する。時間割については、どのような内容をどのくらいの時間数、どんな体制で行うのかを考える。

- ・カリキュラム・マネジメント等、学校関係者以外の人にはわからない言葉が多くある。一部の人にしかわからない言葉を、みんなで共有する工夫が必要であると考え。

➡教員が、普段無意識に使ってしまっている言葉があると考え。しかし、教員側がそれに気づけない場合もあるため、教えていただきたい。

- ・校務分掌の学校運営計画を見て、かなり細かく設定されていると感じた。学校全体の組織がどのようになっているかを知る必要がある。➡組織図は、後日送付共有させていただく。
- ・食物アレルギーの対応について記載されているが、ハラール食（イスラム教で食べることが許されている食品）への対応については話題になっていないか。

➡現在ハラール食対象の児童・生徒は、本校に在籍していない。食物アレルギー対象の児童・生徒には、保護者と相談しながら対応している。また、摂食の部分で未発達の子もおり、配慮食を食堂で作っているが、今後必要数が増えると対応が困難になる可能性もある。

- ・「もしも災害が発生し、対応が必要になったら」という場面を想定するとよいのではないかと考える。
- ・相模原支援学校は、福祉避難所とともに、一時避難所になっている。風水害の場合も避難所にできないかという相談をさせていただいたが、難しいとの回答をいただいた。国の方針により、福祉避難所の受け入れ方を変えたのではと考えている。

➡現在、担当が市役所と打合せをしているところである。

- ・福祉避難所について、これまでは一時避難後、一般の避難所で過ごすことが難しい方が、二次的に福祉避難所へ行くということになっていた。しかし、福祉避難所への非難が必要な人は、はじめから福祉避難所へ避難することとなった。そのことが関連していると考え。
- ・障害福祉では、BCP計画（※）を考えている。感染症は5類になったが、特別支援学校では重篤化しやすい知的の方等への感染症対策をどのように考えているか。福祉業界では先駆けて取り組んでいる。学校も参考にすると良いのではないかと。来年度より、感染対策委員会を立ち上げること、マニュアルをつくることなどが定められることとなっている。

※BCP事業継続計画

企業が自然災害等に遭遇した場合に、事業を継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や、緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画➡ご指摘いただいた内容については、現在対応していない状況である。

- ・感染症は5類になったが、相模原支援学校として県から通知がある以前に、感染症対策をどのように対応していくのか、決めていく必要があると考える。

➡BCP事業計画とは名前は異なるが、学校安全計画というものがある。感染症対策に限らず、災害時等にどのように対応するかを計画しているものである。BCP事業計画については、今後参考にしていきたい。

○切れ目ない支援部会について

・コミ・スクレター6月号を発行する。今回は中島委員、春日委員に原稿を依頼した。本日の学校運営協議会の報告を掲載する予定である。また、次回も委員の紹介を掲載する予定である。ボランティア活動については、2団体中1団体お願いすることとなった。コミ・スクレターについては、引き続き発行していく予定である。相模原支援学校の地域資源を載せたにじいろループについては、今年度用に更新していく。

・ゴミマナー改善ポスターについて、市長も参加した懇談会でも清水G.L.に話していただき、好評だった。自治会も協力していきたい。補助金制度もあるため、相模原支援学校が無理のないよう進められたらと思う。また、子どもたちにやってよかったとも思ってもらうために、自治会でできることを考えていく。本件については、近隣の自治会長に伝えている。

・ボランティアについては、さらに支援していただくサークル団体があるとよいと考えるため、今後も呼び掛けていきたい。

・地域団体であるギオンが、ギオンスタジアムでのグッズ配布をしており、相模原支援学校の生徒にボランティアとして3月に行ってもらった。今年度は、3月は未定だが、SC相模原の試合が7月22日の土曜日に予定されている。当日は18:00キックオフとなる。予定では、フラッグベアラー6名、ユニホーム配布(入場口で配布)、エスコートキッズ11名となっている。エスコートキッズについては、小中学部の生徒も参加できるのではと主催者であるSC相模原から話があった。フラッグベアラーとエスコートキッズは、時間が17:45ごろになると思われる。参加していただけるか、時間が問題である。

・コミ・スクレターは教職員向けの地域連携の便りのため、保護者に向けても発信できるとよいのではと考える。SC相模原の件は、高等部だけでなく、小中学部も参加できるということがわかり、良い取組だと感じた。

○本協議会全体を通して

・学校の取組として、にじいろループに書いてあるものだけではない取組があると思う。更に、取組について聞ける時間があつたらよいと感じた。

・本協議会が、わからないことはわからないと言える場でよかった。今後も色々な情報を聞きながら勉強していきたい。

・今後、良い形で結果を出していきたい。次につながるような取組にしていきたいと考える。

・コミ・スクレターの発信の件があつたが、HPにも発信していくと地域にも伝わるのではないか。公民館のホームページに相模原支援学校のホームページのリンクを張り付けているため、地域の方にはそこから辿っていただけるのではないかと考える。

・前回話をした教職員の精神衛生管理について、考えているのか。現在の取組が見えにくい。そして、養護学校から支援学校に変更とされたことについて、地域や保護者にとって影響は少なくないと思う。また、学部の1年間の目標については、何を根拠に計画しているのか説明がなかった。学校全体がどのように動き、どのような経緯で計画しているのかがわかると、よりよい学校運営協議会に繋がっていくのではないかと考える。学校運営協議会は、本来教員の取組を軽減し、学校が抱え込まないようにするためのものであるため、少しずつ取り組んでいけたらと思う。今後、色々な人へ発信していく必要がある。良い取組であるコミ・スクレターにどのように取り組んでいくかについても少しずつ進めていけたらと考える。

○事務連絡

・次回開催については、7月下旬から8月上旬で再調整していく。

・第3回候補日：12月19日(火)、第4回候補日：3月4日(月)

・教員紹介の冊子に、運営協議会のメンバーも掲載させていただきたくので、各委員で確認をいただきたい。

・職員の精神衛生管理については、学校でも取組を進めているところである。職員同士で良いところを出し合う「相模原いっね」等、教員みんなでモチベーションを上げる取組を行う予定である。ご意見いただき感謝する。